

かいきょううげ【開經偈】



2023-11-29(水) 更新

むじょうじんじんみみようの ほうは、
無上甚深微妙の法は、
ひやくせんまんごうに もあ いたてまつるこ とがたし。
百千万劫にも遭い奉ること難し。
われいまけんもんし、じゅじす ことをえたり。
我今見聞し、受持する事を得たり。
ねがわくはによらいのだいいち ぎをげせん。
願わくは如來の第一義を解せん。
しごくのだいじょうしき すべからず
至極の大乗思議すべからず
けんもんそくち、みなほだいにちか づく。
見聞觸知、皆菩提に近づく。
のうせんはほうしん、しょせんはほっしん、
能詮は報身、所詮は法身、
しきそうのもんじは、すなわち これおうじんなり。
色相の文字は、即ち是れ應身なり。
むりょうのくどく、みなこのきょうにあつまれり。
無量の功德、皆是の経に集まれり。
このゆえにじざいにみょうにくんじ、みつにやくす。
是故に自在に冥に薰じ、密に益す。
うちむちつみをめつしそんをしようす。
有智無智罪を滅し善を生す。
もしはしん、もしはほう、ともにぶつどうをじょうす。
若しは信、若しは謗、共に仏道を成す。
さんぜのしょぶつ、じんじんのみょうでんなり。
三世の諸仏、甚深の妙典なり。
しょうじょうせせ、ちぐしちょうだいせん。
生々世々、值遇し頂戴せん。